

4 問題発生 Schneiderが製造中止に・・・

最初に購入したシュナイダー、このデザインを「Schneider」として話を続ける。Schneiderは、私が履いた靴の頂点に君臨しており、私はリピート購入している。ある日、おさださんから「製造元の都合により、Schneiderは入荷しない」と聞いた。私は、今あるものが最高だという気持ちに切り替えて過ごしているが、Schneiderは変わらず、靴の頂点に君臨している。

私は、Schneiderが、日本の着物に似ていると感じている。私は着物の知識は無いが、どちらの型紙も簡素であり、型紙数は少ないとは言えない。飾りステッチが無く、縫い目に過度なストレスがかからない理論のはずだ。さらに、着物は平らに保管でき、案外、場所を取らない。ブーツは場所をとり、サンダルは自立しないが、しっかりと自立し、紐の収まりもよいSchneiderは、保管が楽だ。

着物は着用後、風通し良いところに吊るしておくが、どちらも、脱いだ状態に造形美がある。Schneiderも手入れするときしか見ないパーツが丁寧に造られており、造り手の拘りが隠されている。Schneiderも着物も、昔ながらの手仕事であると想像するが、素材を厳選し、技術が詰め込まれた品であることを認識する。

着物のように、消費者ターゲットが幅広い訳ではないが、足幅の狭い人にとって、シュナイダーの中でもSchneiderが汎用性高く、魅力ある万能靴だと思う。

5 提案、発言 Schneiderが靴の頂点に君臨する理由

Schneiderは「見た目」が好みというだけでなく、Schneiderを履くことにより、普段着に品格をもたせ、全体をお洒落に仕上げてくれる。化粧や髪型は練習、習得が必要だが、Schneiderは履くだけ、「靴を変えるだけで褒められる」という魔法のアイテムだ。花屋に「お花自身は、花瓶を選ばない」と言われたことがあるが、私の経験では、Schneiderは服を選ばない。

また、Schneiderは、月日を重ねると「あなたの個性が引き立って、お似合いですよ」と褒められる。日本人は「新しいもの好き」の面があり、ワインのように年月を重ねて生まれるような評価基準は深く浸透していない。私自身、お手入れによって生まれる美しさはSchneiderで初めて経験した。

例えば、手指を怪我しても、Schneiderの紐は結びやすく、歩行に問題ない「ラフ」な状態でおさまる。再び着物に例えると、首元がピシッとすると美しいが、ざっくりラフに着ても、お洒落に見える。つまり、着付け（靴紐）に慣れていなくても、ラフさが「味」に見えてくる印象だ。紐が、機能面だけじゃなく、装飾の一部として存在している。

半襟、帯締め、草履なども含めた着物の美しさがあるが、Schneiderも靴底、靴紐の色合いも含め、他のデザインには無い魅力がある。Schneiderが、私の人生に変化をもたらしたという感情面もあるが、その感情を上回るような魅力を、Schneiderに感じている。この素晴らしいデザインであるSchneiderを再び造っていただきたい、そして履き続けたいと願っている。